岐阜新聞真学塾

出題　螢雪ゼミナール 大垣駅前校・築樋拓真

問題【国語】

次の和歌について、後の問いに答えなさい。

花の色は　移りにけりな　いたづらに
わが身世にふる　ながめせしまに

（1）和歌の中の「花」とは何の花か答えなさい。
（2）世界三大美女の一人ともいわれる、この和歌の作者を答えなさい。
（3）この和歌の中で出てくる縁語（えんご）を指摘しなさい。

豆知識 雑学コラム　心動かされる春

気候も暖かく、春らしくなってきました。春と言えば、桜ですね。皆さんは桜と聞くと何を連想するでしょうか。満開な桜の下での入学式でしょうか、それとも、にぎやかで楽しいお花見でしょうか。万葉集の時代から日本の文学には、桜を扱った作品が多く見られます。今回はそんな桜を扱った和歌を少し見ていきましょう。

今回の和歌は小野小町の作品ですね。小野小町は平安時代を代表する歌人で、古今和歌集では、女性として唯一「六歌仙」の一人に選ばれるほどの才能を持った人物です。この和歌は百人一首で出てくる小野小町の歌としても有名ですよね。歌の意味は「（散っていく）桜の花（と同じように私の容姿も）すっかり衰えてしまったなぁ。むなしくわが身にふる長雨を眺めながら、物思いに沈んでいるうちに」というものです。この歌では自分の容姿の衰えを、長雨とともに散っていく桜に例えて詠んだのですね。

今回の和歌に使われている技法について、掘り下げてみましょう。縁語とは、和歌の中の本来のメッセージとは、別の関連するキーワードを並べて、歌の意味を広げる技法をいいます。和歌は31文字しかない短い詩です。その短い和歌の中に縁語を使って、いろいろな意味を込めることで、深みのある作品にするための技法です。今回の和歌ではふる（降る）と、ながめ（長雨）という雨に関する縁語を用いることで「ながめ」を本来のメッセージの「物思いふける」とは別の「長雨の降る」という意味の広がりを持たせています。こうした技法を駆使するところが、小野小町が六歌仙の一人と言われる理由の一つともいえます。

和歌は恋や景色などに心を動かされた時に詠むものです。今回の歌では、桜が散っていくことを自分の衰えと重ねて詠んだ歌になっています。日本文学の世界では、この作品のように、桜は満開の時よりも、きれいに散っていくことに心を揺さぶられて作られた作品が多いことが特徴となっています。皆さんは桜のどんな姿に心を動かされますか。桜に心動かされたら、和歌を詠んでみるのはどうでしょうか。

【解答】

（1）桜　（2）小野小町
（3）ふる（降る）　とだえがち（長雨）　が雨に関する縁語